

稲・麦・大豆かわら版

号外 2019. 7. 10発行
栃木県塩谷南那須農業振興事務所
☎0287-43-2318
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g55>

水稻編



深水管理、いもち病の防除など低温・日照不足への備えを万全に！

1 早植コシヒカリの生育状況(7月5日現在、生育診断ほ(那須烏山市、那珂川町))

- ・草丈は分施、全量基肥ともに平年よりやや長く、茎数は分施、全量基肥ともに多い。
- ・葉齢は0.1～0.3多く、葉色は分施でやや淡く、全量基肥で濃い。
- ・幼穂長から予想される出穂期は「平年並～やや遅い」7月28～8月2日頃。

市町	施肥	草丈		茎数		葉齢		葉色		葉色×茎数		幼穂長cm
		cm	平年比%	本/m ²	平年比%		平年差		平年差		平年比%	
那須烏山市	分施	71.1	104	647	119	11.4	0.1	3.5	-0.2	2265	112	0.3
那珂川町	全量基肥	71.6	103	651	145	11.7	0.3	4.3	0.6	2799	168	0.1

※ 出穂期(平年値): 那須烏山市7/31、那珂川町7/29

2 低温・日照不足に対する対策

別紙参照

3 早植コシヒカリの追肥時期

- ◇ 出穂期以降の葉色が淡すぎると、日照不足等による白未熟粒の発生、高温による胴割粒の発生が助長され、品質低下を招く恐れが高まります。さらに、葉鞘が早期に枯れ上がり倒伏にも弱くなります。
- ◇ 今年の生育では、分施(基肥+追肥体系)の追肥時期は、標準(出穂前15日)よりやや遅い出穂期10日前としますが、量は窒素成分3kg/10a(NK202)をきっちり追肥しましょう。
- ◇ 全量基肥ほ場でも極端に葉色が薄い(出穂10日前の葉色が葉色板で3.0以下)場合は、速効性の肥料(BBNK-707号等)で10a当たり窒素成分1～2kgを出穂期前までに施用しましょう。

4 出穂後の水管理

- ◇ 出穂期・開花期は最も水を必要とする時期なので、不足しないようにこまめな間断かん水を心がけましょう。
- ◇ 出穂期から登熟期、特に登熟初中期(出穂後20日間)の異常高温(最高気温の

平均30℃以上)は、稲体を衰弱させ、胴割粒や乳白粒等の白未熟粒の発生を助長するので、夕方から夜間のかん水により地温を低下させ、根の活力維持に努めましょう。

- ◇ 落水時期は出穂後30日以降とし、その後も高温・多照が続く場合は、ほ場条件を考慮し収穫7～10日前まで走水を実施しましょう。

5 病虫害防除

(1) 斑点米カメムシ

- ◇ 植物防疫ニュース No.4(農業環境指導センター6月28日発表)によれば、斑点米カメムシ類全体の発生概評は「平年並」ですが、気温の上昇と共に斑点米カメムシ類の水田への飛来や、その後の発生量が急増する可能性があるため、以下の防除対策を実施しましょう。
- ◇ 斑点米カメムシ類はイネ科雑草等の穂に引き寄せられて飛来するので、本田内の除草及び水田周辺の草刈り(水稻の出穂2～3週間前と出穂期頃の2回)を行って、カメムシ類が発生しにくい環境にしましょう。
- ◇ 穂揃期に斑点米カメムシ類を確認した場合は、液剤なら乳熟初期(出穂期7～10日後)まで、粒剤なら出穂期～出穂期7日後までに防除しましょう。

【防除対策 ～水田周辺の除草～】

① 水稻出穂2～3週間前

+

② 水稻出穂期頃

(草刈りしたイネ科雑草が出穂する前)

両時期に草刈り

- ①出穂2～3週間前の除草だけでは、イネ科雑草が再出穂してカメムシ類が飛来
- ②出穂期頃のみ除草だけでは、イネ科雑草の穂に集まっていたカメムシ類を水田へ追い込み、水稻の穂を集中加害

①②両方の除草ができない場合は、**水稻の出穂期10日前までに除草を!**

(2) 稲こうじ病

- ◇ ほ場で越冬した厚膜孢子(伝染の主体)が翌年も分生孢子を形成して感染源となります。前年発生したほ場では翌年も発生するので、特に防除を徹底しましょう。

◇ 防除適期は幼穂長が1～5cmの頃(銅剤:出穂前 20～10 日、シメコナゾール剤:出穂前 21～14 日)で、5月第1半旬植では7月 10 日前後です。時期を逃さないよう注意しましょう。

◇ 穂ばらみ期頃に降雨が多いと予想される場合は、必ず防除を行って下さい。

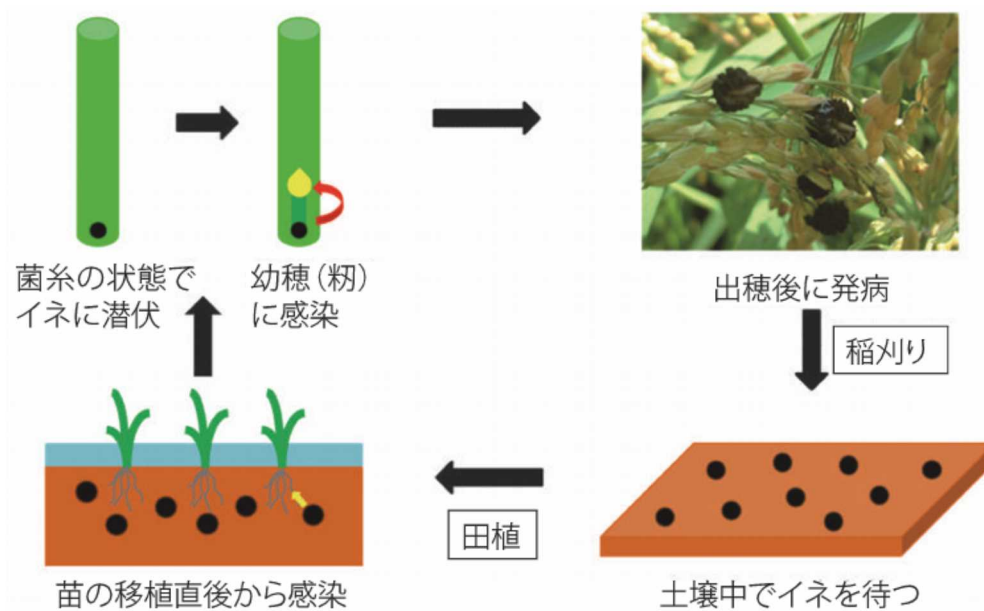


図 イネ稲こうじ病の伝染経路

6 収穫期予想

コシヒカリは出穂後37～38日頃から刈取適期を迎えます(帯緑色籾率10%)。

現在の生育、気象から予想される刈取適期の始まりは9月第2半旬頃です。胴割粒等の発生による品質低下を防止するため、適期刈取を徹底しましょう。



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

身支度も
万全にし
てまる！

- ①農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ②農薬の飛散防止を徹底する
- ③農薬の使用状況を正確に記帳する